



西川亮先生のご逝去を悼む

名誉教授西川亮（にしかわ・あきら）

先生が、ご退官後日ならずして、去る四月二十二日、心臓麻痺（冠不全）のために急逝されました。

人一倍お元気な方だっただけに、信じ難い気持ちを未だに拭い切れません。

先生は、昭和三十九年に広島大学大学院文学研究科博士課程（西洋哲学専攻）を修了され、広島電機大学講師、同助教授を経て、昭和四十三年四月に広島大学文学部に着任されました。以来、本年三月に停年で退官なさるまで、二十八年の長きにわたって本学で研究と教育に尽力され、厳正・廉直な人柄と幅広い学識に裏付けられた優れた指導力によって、社会に多くの人材を送り出されました。

先生のご専門は、前ソクラテス期におけるピュシスの問題、とりわけデモクリトスを中心とする古代原子論の研究であり、厳密な文献的研究方法にもとづく研究成果によつて古代ギリシャ哲学の解明に大きく寄与されました。

学内においては、大学評議員をはじめ数々の要職の責任を全うされ、地域社会に対しても、放送教育やりカレント教育実施の責任者としてそれらを円滑に推進し、開かれた大学の実を挙げることに尽力されました。また社団法人尚志会理事長を長く務められ、本学卒業生の親睦という面でも大いに貢献されました。

ご退官後は、広島市立大学国際学部に教授として勤務され、ますますのご活躍を期しておられただけに、早すぎたご逝去は惜しみても余りあることであり、私たち西洋哲学教室としましても突然大きな支えを失った思いで、残念でなりません。茲に謹んで哀悼の意を表しますとともに、心からご冥福をお祈り申し上げます。

文学部哲学講座 高柳央雄（たかやなぎ・ひさお）



名譽教授 石堂豊先生のご逝去を悼む

石堂先生は、一月十八日、八十四歳で急逝されました。人の世の無常を痛感し、

哀惜の感に堪えません。

先生は、広島文理科大学をご卒業後、広島高等師範学校教授、広島大学教育学部助教授、教授を歴任され、その深い奥な学識と包容力によって多くの人を惹きつけ感化されました。特に、研究者としては、長年にわたり学校教育と社会教育の両領域を統合する教育経営学の構築に尽くされ、「教師の疲労とモラール」「教育行政と経営学」など、多数の著作をものされ、教育経営学の新基軸を拓かれました。

先生の調査研究のフィールドは、誠に氣宇壮大であり、先進諸国はいうまでもなく、南米、アジア、アフリカ諸国にまで及んでおります。趣味も幅広く、なかでも詩吟がお好きで、先生の朗々たる声は、その温かいお人柄とともに私たちの脳裏から永遠に消え去ることはありません。ご退官後も、来訪した私達をご自宅の三階の高殿に案内され、望遠鏡を取り出して琵琶湖八景をご説明いただいたのがついで、先生のような気がいたします。気がついてみますと、先生は心臓疾患で病臥され、病院を転々とされていました。

いつぞやお伺いした際、音声を失われた先生は、コツコツとベッドの邊をたたかれ、枕もとの棚の方へ向こうとされました。私は即座に棚の上の菓子鉢を先生の目の前に置きました。おもむろにお菓子を口に運ばれ、私も食べるよううにいうしぐさをされました。嬉しそうに食べられたのが鮮やかに思い出されます。

あんなにエネルギッシュに講義・講演をされていた先生が、病魔に手足の自由を奪われ、最後には言葉まで奪われ、どんなにかつらいい思いをされたことあります。どうか安らかにお眠りください。

先生の御靈が永遠に安らかからんことを祈念申し上げるばかりにすべはございません。

教育学部教育学科社会教育学

佐々木正治（ささき・まさきはる）

追悼



藤井道枝先生のご逝去を悼む

先生は、昭和四十九年三月福岡教育大学小学校教員養成課程をご卒業後、同年四月に広島県賀茂郡黒瀬町立下黒瀬小学校にお勤めになられ、平成三年四月から広島大学附属三原小学校教諭として奉職されました。

先生の教育活動は、にこやかなお顔と子どもたちへのやさしいお言葉がけで、児童が行う日々の活動を暖かく見守り、児童が気付くまで大らかに待たれ、彼らが気付きの中で育つ様子を喜んでおられた姿が、強く心に浮かびます。

特に、音楽科教育の創造的音楽活動については、現在の六年生が四年生の時に創り上げた音楽の授業、子どもたちが感じたことを詩に表わし、彼ら自身の心の中にある音で、子どもたちが伝えようとして創りだしていくた音楽は、先生の教育活動が結実したものとしていつまでも私たちの心に残ります。

先生が、接しられた児童の、優しい心や元気いっぱいの体の成長を見ますとき、先生の教育信念がそのまま伝えられています。

また、先生は、教職員や保護者に対し、その人の良さをしっかりと見とり、その良さを生かされるように心配りをなさつてくださいましたし、日頃の会話でなされる創造的な発想には驚かされるばかりでした。

先生から学んだ暖かい心を育てる教育とともに、先生の心の持ちようや考え方を受け継いでいく覚悟でございます。どうか安らかにお眠りください。

附属三原小学校副校長

竹志 範昭（ちくし・のりあき）